

ハンドマイク街頭演説原稿例 今こそ核兵器廃絶を

二〇二二年八月五日 日本共産党埼玉県委員会・作成

※日付に注意！ いつ使うかで適切に修正してください※

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

みなさん、広島と長崎に原爆が投下されてから、今年で七十七年めの夏を迎えます。原爆により命を落とされた多くの方々のご冥福をお祈りするとともに、今も苦しんでいる被害者の皆様にお見舞い申し上げます。

原子爆弾、核兵器は、熱線と爆風によって都市を一瞬にして破壊し、人々の命を無差別、大量に奪ってしまいます。命が助かっても、放射線障害などによって長年にわたって苦しみ続けることになってしまいます。広島と長崎に投下された原爆は、現在からすれば旧式で小型の爆弾でした。それでも、投下から四カ月あまりのうちに二十一人も命を奪いました。みなさん、これほど非人道的な大量破壊兵器は、二度と使われてはなりません。そのためにも、この世界から核兵器をいっさいなくすことこそ、必要ではないでしょうか。

ウクライナへの侵略を続けているロシアのプーチン大統領は、核兵器を使うと世界を脅しました。断じて許されない暴挙です。一方、日本国内ではアメリカの核兵器を「共有」するべきだとか、核兵器による「核抑止力」を強化すべきだと主張する人たちがいます。「核共有」とか「核抑止」とは、いざとなったら核兵器を使うという意味であり、プーチン大統領の脅しと同じことです。世界で唯一の戦争被爆国である日本が、よりによって核兵器を使う方針を掲げるなど、あまりにとんでもないことではないでしょうか。

みなさん、世界は核兵器廃絶へ、大きく進んでいます。核兵器の使用や保有をはじめ、核兵器にかかわるすべての活動を禁止する核兵器禁止条約は、六十を超える国が正式に参加しています。六月に開かれた締約国会議には、正式参加していない国々からもオプザーバー参加があり、中にはドイツなどNATO加盟国もありました。八月に行われた核不拡散条約の再検討会議でも、参加国からは核廃絶に向けた合意の実行を求める発言が相次ぎました。

ところが日本政府の対応はどうでしょうか。核兵器禁止条約締約国会議にはオプザーバー参加さえせず、アメリカやロシア、中国などといっしょにならなかって会議に背を向けました。核不拡散条約再検討会議では岸田首相が演説しましたが、具体的な核軍縮について触れずじまいでした。核廃絶に背を向けていると言われても仕方がない態度ではないでしょうか。

世界で唯一の戦争被爆国である日本は、今こそ「核抑止」の立場から抜け出し、核兵器廃絶の先頭に立つべきではないでしょうか。日本共産党は、核廃絶を求める国内外のみなさんと手をつなぎ、政府に核廃絶の取り組みを求めるとともに、核廃絶の立場に立つ政府を実現するために全力をあげる決意です。

スクープ連発で広く注目をあつめている「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますよう最後にお願いたしました。この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございます。(了)